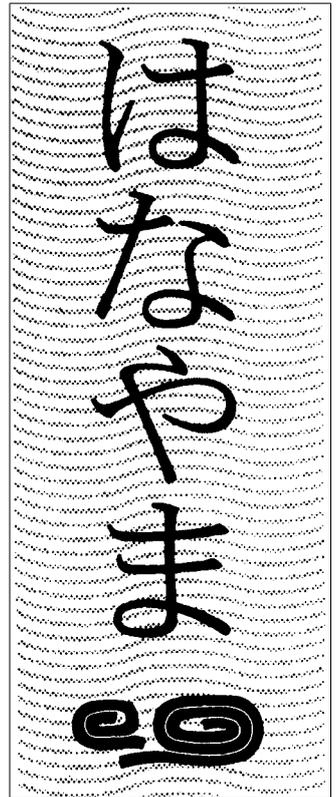


第48回宮城県芸術祭

困難を乗り越え 書道・工芸展で開幕

～震災復興支援も兼ねて～



発行
 社団法人
宮城県芸術協会
 (郵便番号 980-0803)
 仙台市青葉区国分町3-3-7
 宮城県民会館内
 電話 (022) 261-7055
 F A X (022) 214-5184
 E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
 編集 小山喜三郎

書道・絵画 工芸・写真 四会場で巡回展

東日本大震災復興支援と位置付けた、第四十八回宮城県芸術祭が、九月二十三日からの書道展・工芸展を皮切りに、十一月二十四日の閉会式まで二カ月にわたり開催されている。会期中、四市町を会場とする巡回展も並行して行われている。

第四十八回宮城県芸術祭は、未曾有の被害をもたらした当協会会員の命をも奪った東日本大震災の復興支援と位置付け、開場式が九月二十三日午前十時から、メディアアテーク五階の書道展会場前で行われた。式には主催七団体の宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、宮城県文化振興財団の各代表と、書道部、工芸部を中心とした芸術協会会員らが多数出席した。

協理理事長が、「大震災によって亡くなられた多くの方々には、鎮魂の祈りを捧げ、被災された方々にお見舞いを申し上げます」とあいさつ。「会員の多くが被災し、文化施設にも被害があり、芸術協会の活動の大幅な見直しが必要となっているが、会員一同はそれぞれの部門の特色を生かした芸術活動を展開して欲しい。この震災を天が与えた試練と捉え、芸術協会創設五十年の歴史の転機としてルネッサンスを目指したい」と述べた。

書道部門の中塚仁主任と工芸部門の浅野治志主任より、震災を乗り越えた作品であることが付け加えられ、それぞれの解説がなされた。引き続きテープカットを行い、芸術祭の開幕となった。書道展には三百二十三点、工芸展には昨年を上回る八十二点の力作が展示され、各部門の担当会員が説明に当たり、鑑賞者は熱心に聴き入っていた。

今年も県民との交流を図るため、絵画部は「秋の一日ゲイジユツしまししょう！」と題して人物クロッキー、ギャラリートークなどによる実作指導とアドバイスの場を設け、一般の方々との触れ合いの機会を多くしている。書道展では受賞者による揮毫会も行われた。芸術祭はこの後、絵画展、華道展、彫刻展、写真展、

11月19日に臨時総会

～事務所取得など審議～

十一月十九日午前十時から仙台国際センターで芸術協会の臨時総会が開催されることになった。議案は不動産(事務所)の取得とその関連議案。芸術協会の活性化に繋がる重要案

閉会式は11月24日 ふるってご参加を

第四十八回宮城県芸術祭の閉会式は、十一月二十四日午後六時から、ホテルメトロポリタン仙台で開催される。授賞式のあと各賞の受賞者を囲んで来賓と芸術協会の懇親会が開かれる。受賞者はもとより、多くの会員の参加が望まれる。会費は六千円(当日会場受付に納入)。

参加希望者は十一月十五日まで、芸術協会事務局へ申し込んで欲しい。

件であることから、多くの会員の出席が望まれる。欠席者は必ず委任状の提出をお願いしたい(第二面に臨時総会に向けた理事長談話)。

一面で紹介したとおり、十一月十九日に本協会の事務所取得などを審議するため、臨時総会を招集致しました。具体的には不動産(新事務所)の取得計画を検討していただくものです。

計画は、芸協の公益法人化への流れの中で持ち上がり、東日本大震災で県民会館内の現事務所が相当程度被害を受けたことで、それに拍車がかかる形になりました。

公益法人化へ向けての準備委員会は、これまでに十三回開催。最終まとめの段階に入っておりますが、事務所の破損状況を判断し、今後の見通しを立てる作業の中で、将来を展望する小委員会を設けて新事務所の取得を模索することになりました。

小委員会が迅速に動いた結果、不動産の物件情報入手。理事、小委員会のメンバーも数回の下見を行い、二度の理

事で協議した結果、全員一致で臨時総会の開催を決めるに至りました。

芸術協会が会館を保有し、会員が自由に集まって、研究会や講習会などを開く場所も欲しい。さらには、常設のギャラリーなど、夢が大きく広がった時代もありました。それと比べると、次善の策と言えるかも知れませんが、新しい事務所を芸術協会の新しいスタートの場にしたい、と願っているものです。

長年の夢一歩前進

臨時総会召集に当たって

芸協理事長 小山喜三郎

性急に事を運ぶように受け取る方もおられるかも知れませんが、以上のような経過をご理解いただき、

芸協五十年の歴史の中で成熟されてきたものと受け止めて欲しい、と思います。

芸協百年の大計に関わることもありませんので、臨時総会に出席できない会員の方は必ず委任状を提出いただきますよう、お願いいたします。

大震災に負けないように

書道部盛況のうちに揮毫会

書道部では恒例の「受賞者による揮毫会」書の楽しさを目と耳で」を九月二十五日午前十一時から正午まで、メデアテーク六階のハワイエで開催した。

受賞者のうち十一名が作品の実演を披露。普段は見ることのできない制作現場に、ギャラリーは固唾を呑んで見守った。

中塚主任による作者へのインタビューでは、紙・墨・筆の選び方や、天候によって作品の濃淡が変わってくるなど、技術論に加え、書に向



盛況だった書道部揮毫会

かう時の心境や常々心がけていることなどのメンタル面も紹介され、来場者はひとつひとつにうなずいていた。「大震災に負けないように力強く書きました」との作者のコメントには、大きな拍手が湧き起こっていた。

「茶席と書」テーマに

書道部研修会

書道部の研修会は「茶席と書」をテーマとして、九月二十五日午後二時から四時まで仙台市被災復興記念館五階で開催された。

講師の高橋威仙芸術協会常任理事より「茶道の歴史」「茶の湯の心」「茶掛け」「近代の禅僧」などについてお話をいただいた後、来場者より質問を受けた。茶にまつわる日頃の疑問は多く、日本人としての関心の高さをものごとがたつていた。また、茶と書の接点についても鋭い質問が出され、高橋理事はそれに丁寧に答えていた。



質問に答える高橋講師

女性モデルを使って

絵画部が人物クロッキー

絵画部は十月八日、仙台市福祉プラザにおいて、女性モデルを使った人物クロッキーを開催。初心者でも簡単に人体をとらえられるよう指導と助言を行い、好評を博した。

美術館の大嶋氏講師に

ギャラリートークも

十月八日、芸術祭開催中の絵画展会場において、宮城県美術館研究員の大嶋貴明氏がギャラリートークを行い、展示作品を見ながら「今日の絵画・美術事情」に関わる話などをした。

文学散歩

文学と歴史を堪能

寺山修司記念館と

つぼのいしづみを訪ねて

9月27・28日



ユニークな展示がある寺山修司記念館

第四十八回文学散歩は三十四人が参加、九月二十七、二十八日の一泊二日の日程で行われた。
<一日目>
朝八時仙台駅を出発したバスは八戸を目指し、高速道をひたすら走る。
最初の見学は八戸市公会堂前にある「三浦哲郎文学碑」。車中で牛島主任より三浦哲郎について詳しい解説があり、親しく文学碑を囲んだ。
次は七月に開館したばかり



乙女の像前で記念撮影する乙女達

の八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」へ。是川遺跡より出土した縄文時代の土器や木製品、石器、美しい漆塗り飾弓や漆器など、展示物の説明を聞きながら見学。なかでも風張遺跡から出土した国宝の合掌土偶は圧巻。縄文人の豊かな生活に改めて感動した。
最後は「寺山修司記念館」。ユニークな展示物、映像、幾つも並ぶ机の引き出しを開け寺山ワールドを堪能した。参



国宝合掌土偶



「日本中央碑」

八時三十分出発、歌枕の「つぼのいしづみ」ともされている東北町にある「日本中央(ひのまのまなか)の碑」保存館へ向かう。昭和二十四年、同町の湿地帯より発見された碑の真偽については定かでないが、歴史のロマンと奥深さを感じられた。
昼食後は十和田湖畔を散策。高村光太郎作の「乙女の像」を鑑賞し帰路に就く。今回は好天に恵まれ、有意義な文学散歩であった。

加者はそれぞれ抱いていた修司像に、新たなイメージが加えられたことだろう。
夕闇の近づくころ宿泊地古牧温泉「青森屋」に到着。
<二日目>



入場者で賑わう絵画展



好評だった絵画・文芸コラボ展

被災にめげず多数来場

― 芸術祭展示分野 ―

九月二十三日から十月十二日までせんだいメディアアテークで開催された第48回宮城県芸術祭展示分野の入場者は二万四千八百七十五人で、昨年の二万五千七百一十一人をわずかに下回った。部門別では、絵画展が一万九百三十八人(五百二十一増)、書道展が四千二百十二人(千三百十九減)、華道展が二千八百八十四人(七十一人減)、写真展が二千五百八十三人(六十八人増)、彫刻展が二千五百五十四人(百八十五人増)、工芸展が二千百四人(二百二十人減)となっている。
今年の芸術祭は三月十一日の東日本大震災で、会場のせんだいメディアアテークも窓ガラスなどが被災したため、一時は開催自体が危ぶまれた。また、画材や筆墨などの道具類が流され、窯や工房などに被害を受けながらも困難を乗り越えて出品にごぎつけた会員も多かっただけに、この大災害の中で入場者が微減にとどまったことに、各部門の展示担当者は胸を撫で下ろしていた。
今回は絵画部門の会員が宮城をイメージして描いた色紙に、文芸部の会員が短詩文の色紙を添えたコラボ作品も展示され、好評であった。

原田・川北氏に芸術選奨、種澤氏は新人賞

平成22年度宮城県芸術選奨の授賞式が8月26日、宮城県行政庁舎で行われた。例年は6月に実施されてきたが、今年は東日本大震災の影響で2カ月遅れの顕彰となった。芸術協会の会員では原田夏子(文芸・短歌)川北京子(美術・工芸)の二氏が芸術選奨を、種澤有希子氏(美術・工芸)が芸術選奨新人賞を受賞した。

会員外では、佐々木健(美術・洋画)、佐藤達(美術・彫塑)の両氏が芸術選奨を受賞。柴田滋紀(美術・洋画)、椎名勇仁(美術・彫塑)、篠沢亜月(文芸・俳句)、柴田三兄妹(音楽・器楽)の各氏が芸術選奨新人賞を受けた。

芸術選奨



(文芸・短歌)
原田夏子氏

七十年以上短歌の制作に励み、宮城県の歌壇で重要な役割を果たしてきた。また、県内の高校で教師を務め、国語教育界で実績を積み上げてきた。

平成二十二年、敗戦後の苦難や自らの半生を振り返る作品を集めた第三歌集の「生くる日」を刊行。今後も創作者としてはもとより、後進の指導者としても重要な役割が期待されている。

仙台市青葉区在住。大正十年生まれ。

まだ学ぶべきこと多く

優れた短歌作者は沢山おられますのに、さしたる活動をしていたとも思えぬ私への、思いもかけないご評価を頂き、ただ恐縮し、感謝申し上げます。

日中戦争、太平洋戦争という厳しい現実のただ中で若い日を過ごし、さらに今年三月十一日の東日本大震災に遭いながら辛くも助かった命を長らえております。ありがたいことと思えます。この度のお励ましに元気を頂きました。まだまだ学ぶべきことの多くを残しています。またまた学ぶべきこと、素直な自分に立ちかえり、生きることの意味を問い続けたいものと思っています。



(美術・工芸)
川北京子氏

七宝の技法を用いて、大きな額絵を制作。日展で十二年間に十一回の入選を果たし、平成二十一年、会友に推挙された。二十二年には、日本現代工芸美術展で本会員賞を受賞し、高校や市民センターなどで、幅広く七宝を教えている。

今後とも、若手の手本となつて氏自身の画風で表現した、おおらかでダイナミックな作品の制作が期待されている。

黒川郡富谷町在住。

芸協での出会いが励みに

このたびは、宮城県芸術選奨をいただきまして、誠にありがとうございます。

ここ十数年、人々に忘れ去られた遺跡を照らす月の光と影を追求し、制作してまいりました。

芸術協会では、分野を超えた先生方との出会いと交流で、ご指導や励ましのお言葉をいただきまして、ありがたく感謝しております。多くの方々の支えがあったからこそと、これからも日々研鑽を重ね、努力してまいりたいと思っております。今後ともよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

芸術選奨新人賞



(美術・工芸)
種澤有希子氏

さわやかな色調の中に描かれる独自の表現が作品の特徴で、専門家から高い評価を受けている。平成二十二年には、日本伝統工芸展で四度目の入選を果たし、日本工芸会正会員に認定された。

今後は、表現の幅をさらに広げるとともに、若手作家の中心的な存在として、宮城県の七宝工芸の力強い牽引役となることが期待されている。

仙台市青葉区在住。昭和四十二年生まれ。

夢を追って作品創り

七宝に出合つて十五年。制作を重ねるたびに、その奥深さと難しさを、強く感じております。

七宝作品には、造形・デザイン・配色・仕上げ等々、数多くの表現要素があります。そのどれもが突出するのではなく、すべてが融合し一つの空気感に包まれた作品を、いつか作りたいという夢があります。夢はまだ遠く、今回の受賞は歩幅の小さくなった私の背を押してくれるものと信じて、また作品創りに励んでまいります。日頃よりご指導いただいた先生方、諸先輩に心より感謝申し上げます。

ホームページを開設 芸協の活動を全国に発信

長年の懸案であった芸協のホームページがこのほど完成し、第四十八回芸術祭に合わせ公開された。

ホームページの開設で、インターネットを介して芸協の活動を宮城県内だけでなく全国に発信することが可能になった。

これまでの芸協活動は、会員以外の人にとっては秋に繰り広げられる芸術祭や各部門が実施する事業でしか知ることができなかった。これからは、時間や地域を飛び越えて、何時でも、誰でもが自由にアクセスし、芸協にどのような活動が行っている



斬新なデザインのトップページ

かを即座に知ることができ、各種情報に素早くアクセス

トップページは、新緑の定禅寺通りに立つブロンズ像の写真を配置した斬新なデザインとなっている。写真。

画面の上位に「協会概要」「事業計画」「部門紹介」のメニューボタンがあり、下に芸協十一部門への入り口となるボタンが並ぶ。「協会概要」からは、理事長挨拶、定款、事業、役員、芸協の歴史などを見ることが出来る。また、「部門紹介」の各部門のボタンをクリックすると、目的・事業内容・運営規定・会員名簿に移動できるようになっている。

画面左側には「芸術協会とは」「宮城県芸術祭」「はなやまweb版」「各種用紙ダウンロード」などのボタンがある。このうち、「宮城県芸術祭」からは、その年の芸術祭全事業の詳細がわかるほか、展示部門の受賞者一覧および受賞作品の写真も閲覧できる。「はなやまweb版」には最新

版だけでなく、バックナンバーも掲載する予定である。また、「各種用紙ダウンロード」からは後援依頼などが入手できる。

トップページの中央には「NEWS／最新情報」「TOPICS」の欄があり、芸協からのお知らせや会員の個



扇畑利枝氏は、早くから作歌を始められた由であるが、昭和二十一年に東北アララギ会「群山」の創刊号に森京花の名で参加したのが歌人としての本格的な出発であった。

その後「群山」編集兼発行者の扇畑忠雄氏と結婚（昭和二十三年）。おしどり夫婦として、二人三脚で「群山」の発展に寄与した内助の功は、世に知られるところである。

しかし、その活躍の場は広く「群山」の外へも及んだ。即ち、昭和二十四年「女人短歌」創刊に参加し、同三十二年以降はその東北支部長として、後進の育成に貢献。昭和四十五年、第一回東北短歌大会選

展情報などを速報する。ホームページのURLは myagiart.com であるが、「宮城県芸術協会」の検索でも簡単にアクセスできる。

扇畑利枝参事ご逝去

芸術協会参事の歌人扇畑利枝氏が八月二十九日、逝去さ

者。その後、各種短歌大会の選を担当し、原阿佐緒歌碑建立に尽力。また、宮城県婦人会館教養講座等々の講師として、広く短歌を指導した。昭和四十七年には、宮中歌会始の陪聴に参列している。

扇畑利枝氏を偲ぶ

文芸部 徳山高明

さらに歌界を超えた広範な活動によって、宮城県教育文化功労賞（昭和五十七年）、仙台市市政功労賞（昭和六十二年）、地域文化功労文部大臣賞（平成七年）、第五十三回河北文化賞（平成十五年度）等々を受賞する荣誉に輝いている。

さて、ほぼ六十年に及んだ歌人としての業績は次の六冊の歌集に輝かしく結晶している。
1 遠い道（昭和52年刊）
2 櫻の花（昭和62年刊）
3 春の水（平成5年刊）
4 雪兎（平成9年刊）
5 川べの宿（平成12年刊）
6 小さな滝（平成18年刊）
次の二首は、その人間性と歌人としての生涯を象徴するものであろう。
・不意に襲はむ心臓発作に心いたむ神よ夫のため生命を下さい（小さな滝）
・歌があるから歌にはげまされ生きてゐる心臓の葉飲みて貼りつつ（右同）
享年九十六歳。法名は「明鏡院群華」であった。み魂のご冥福を心よりお祈りします。 合掌。

事務局 日誌

会務報告

9 月 12・20 日理事会

○新入会員(正会員)の承認について

○社団法人東北経済倶楽部からの

寄付金申し入れについて

○不動産の取得について

後援

☆第 64 回春光会展

8 月 16 日～8 月 21 日

大崎市民ギャラリー「緒絶の館」

8 月 23 日～8 月 28 日

美里町近代文学館

☆第 47 回宮城水彩展栗原展

8 月 26 日～9 月 23 日

栗原文化会館

☆ふるさと宮城の美しい風景を描く

～浅野忠信油絵展

9 月 1 日～9 月 15 日

カフェ・ギャラリー ガレ

☆第 30 回新芸術東北展

9 月 9 日～9 月 14 日

せんだいメディアアテーク

☆2011 年レニヤールニフェス

ティヴァルコンサート他

9 月 16 日～9 月 25 日

イタリア・ブレッシア他計

3ヶ所

☆東日本大震災復興祈念

第 26 回郡山流尺八演奏会

9 月 19 日

仙台市青年文化センター

☆第 41 回宮城書芸院書展教育部展

9 月 30 日～10 月 2 日

大崎市民ギャラリー「緒絶の館」
☆思いっきり泣いたっていい、
負けたっていい、でも挫けるな
遊佐聖心作品展
10 月 8 日～12 月 11 日

栗駒みちのく伝創館
☆第 41 回宮城書芸院書展

10 月 12 日～10 月 16 日

大崎市民ギャラリー「緒絶の館」

☆第 10 回夢楽描き展

(水彩画サークル合同展)

10 月 14 日～10 月 19 日

せんだいメディアアテーク

☆第 39 回書道展

10 月 29 日～10 月 30 日

登米市迫体育館

☆みんな一書・被災から立ち上
がった作家展

10 月 31 日～11 月 12 日

おみやギャラリー

☆歌いつがれゆく日本の歌

なつかしい歌、あたらしい歌

11 月 2 日

仙台市青年文化センター

コンサートホール

☆伊藤松鶴書作展

11 月 4 日～11 月 9 日

せんだいメディアアテーク

☆第 36 回教育書道研究会

学生部書道展

11 月 4 日～11 月 9 日

せんだいメディアアテーク

☆第 36 回素心会書道展

11 月 4 日～11 月 9 日

せんだいメディアアテーク

☆チルコロ・フロラ

第 46 回定期マンドリン演奏会

11 月 5 日

仙台市青年文化センター
コンサートホール
☆第 40 回宮城教育大学
マンドリン部定期演奏会

11 月 5 日
仙台市若林区文化センター

☆第 18 回彩泉会洋画展

11 月 15 日～11 月 19 日

仙台市福祉プラザ 2 階展示ロ
ビー

☆クール・リュミエール創立

55 周年記念第 45 回定期演奏会

11 月 23 日

東北大学百周年記念会館

川内萩ホール

☆第 1 回書道会書道展

11 月 29 日～12 月 4 日

東北グリーンプラザギヤラ
リー

☆第 19 回宮城シニア美術展

12 月 1 日～12 月 4 日

宮城県美術館県民ギャラリー

☆東日本大震災復興のための

チャリティー三曲特別演奏会

12 月 7 日

電力ホール

☆第 50 回洗心書道展

12 月 15 日～12 月 18 日

仙台市民会館展示室

☆第 29 回メサイア(救世主)演奏会

12 月 17 日

仙台市青年文化センター

コンサートホール

☆第 4 回「小・中学生紙上書道展」

12 月中旬

河北新報朝刊紙上

☆第 29 回白土会展

12 月 23 日～12 月 28 日

☆「能島和明日本画展」

11 月 16 日～11 月 22 日

仙台三越 7 階アートギャラリー

11 月 23 日～11 月 27 日

栗原文化会館

会員の入賞・入選など

◇月刊俳誌「春耕」

第 23 回春耕賞 岩田諒 (俳句)

◇第 33 回日本新工藝展

〈公募部門〉▽日本新工藝
奨励賞 小川和子 (陶)

◇第 28 回読売書法展

〈篆刻部門〉▽読売新聞社賞
高野芳月

◇再興第九十六回院展入選

〈日本画〉大泉佐代子

受贈書

四季の息吹・小笠原宏写真集(小笠原宏)

謹 弔

華道部 (仙昇池坊)

鈴木花風殿

7 月 19 日

文芸部 (短歌) 八島美代子殿

3 月 11 日

文芸部 (川柳) 唐木浩子殿

8 月 13 日

絵画部 (洋画) 千葉陽正殿

8 月 10 日

文芸部 (短歌) 扇畑利枝殿

8 月 29 日

書道 大村桃豊殿

10 月 1 日

けやきの譜

東日本大震災からはや七カ
月が過ぎたが、復旧・復興の
足取りは依然として鈍い。三
陸沿岸のサンマ水揚げ、カツ
オ漁再開などのニュースは伝
えられるものの、面的、重層
的な広がりではない▼阪神・
淡路大震災の際は、発生から
四カ月後に詳細な復興計画が
まとめられている。今回の大
震災のエネルギーが阪神・淡
路の一、四五〇倍であったこと
を差し引いても、遅れが目立っ
てならない▼この種の事業に
はスピードが求められること
を関係者は肝に銘じてほしい
ものだ。半年以上も、仮設住
宅や避難所で暮らしている人
たちが大勢いる中で、中央に
置く復興庁の下部組織として
宮城など被災三県におかれる
「復興局」は、まだ構想段階
にすぎない▼博物館や美術館
の復旧は、さらに遠い。十月
に入ってやっと財政支援の方
針が決まり、来年度の概算要
求に盛り込まれた段階だ。何
が急がれるのか、の仕分けが
できる人材は政府内にいない
のであろうか。(恂)